

卒業生を覚えるチャペル

小林 伸生 学部長

いよいよ4年生の皆さんは、大学という独特な空間を飛び出して、それぞれの社会に巣立っていきます。社会に出ると、今は当たり前感じてきた大学という空間が、いかに恵まれ、そして守られた空間であったかを実感すると思います。

経済学部の皆さんが、4年間の学びを通じて、おそらく市場メカニズムが持つ力を学んできたことと思います。時折、「日本は世界で最も成功した社会主義国」などと揶揄されることもありますが、基本的には日本も資本主義国の一員に位置づいています。そして資本主義とは、もちろん国や時代によりその程度に差はあるものの、市場メカニズムに対する信頼を基本的に持っているという点では、概ね一貫しています。

確かに、少なくとも第2次対戦後の世界の状況を見ると、資本主義を国是とする西側諸国がより高い成長を遂げ、豊かさを実現しました。それは、国家が様々な生産に対して計画的に介入することよりも、市場の中で需要と供給が調整され、競争を通じてイノベーションが促進される社会の方が、経済成長を実現するための近道であると、現段階では考えられています。

一方、資本主義及び市場競争は、資源の効率的な活用については有効に機能を発揮しますが、生みだされた富の分配に対しては、極めて無頓着です。今日、資本主義諸国の多くにおいて、貧富の差の拡大傾向が顕著になっています。世界で最も豊かな、成功を遂げた起業家が、多くの国の国家予算よりも多くの資産を保有する一方で、日々の生活に最小限必要な衣食住さえ満たされない貧困層は、世界でますます増大傾向にあります。全体のパイを大きくするという意味においては、市場競争および資本主義は有効に機能する反面、その分配を通じて世界の人々に豊かさを実感させることに対しては、しばしば無力なのです。

私は、資本主義および市場競争は、いわばブルドーザーのようなものだと思います。例えば、新しい街を作ったり、巨大建造物を建てたりする状況において、それらを活用することが、効率的にそのアウトラインを作ってくれます。しかし、整えられた街、美しい建物を完成させるためには、それだけでは到底なれません。美しい・完成度の高い地域づくりに結びつけるためには、より細やかな作業に適した道具を使って、丁寧な作業を行い、完成度を高める必要があります。一方で、小さく細やかな道具だけを用いて、様々な構造物を作るという大事業と対峙しても、非常に時間を要します。我々は、両者を効果的に使い分ける必要があります。

これを、私たちと社会の向き合い方に置き換えて考えると、資本主義というブルドーザーを最

大限活用しながら、その「詰めの甘さ」に対して、一人一人がきめ細やかに目配りをして、社会的厚生の最大化に貢献し得る存在でなければならないと思うのです。その重要性は、市場メカニズムが浸透するほどに、高まってきていると考えます。

4年生の皆さんの多くは、市場競争の波に揉まれながら、社会人としての第一歩を踏み出していきます。どうかそこで生み出される富が、一人一人の豊かさとして実感できる社会にするために社会の一員として活躍してください。競争社会で勝ち取った果実を、自主的に再分配できる存在になって頂ければと思います。